健康にアイデアを
meiji

2026年度 第2四半期（中間期）決算説明資料

対象期間：2026.4.1-9.30

2026年11月12日

明治ホールディングス株式会社

目次

1．エグゼクティブ・サマリー

2．2026年度 上期総括

3．2026年度 下期・通期見通し

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

エグゼクティブ・サマリー｜上期総括

- **26年度上期の連結営業利益は計画超過**
  - **医薬品は計画を上回って大幅増益**

    →好調に推移した1Qの貢献に加えて、主力品の伸びによるプロダクトミックスの改善や、費用の期ズレが寄与
  - **食品は計画未達。構造改革やコスト低減効果は寄与したが、売上数量が乖離**

    →価格改定効果は計画以上に発現。プロバイオティクス、チョコレートは数量が好調に推移したものの、牛乳やアイスクリームが未達

    特にアイスクリームは国内・海外ともに課題。天候などの外部環境要因だけに終わらせず、下期は商品力強化にも取り組む

- **「大小を問わない構造改革の断行」という方針のもと、上期も着実に実行**

  <u>上期に決定した構造改革</u>

  ・中国デイリー・BtoB事業の譲渡（27年1月～）

  ・国内のアセットライト化：冷凍食品事業の終了（～27年3月末）、日本罐詰の譲渡（11月～）

  ・ジェネリック医薬品の環境変化に対応した医薬品共創機構の設立（共同出資、12月～）

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

エグゼクティブ・サマリー｜構造改革から成長の創造へ

- 通期営業利益の見通しは1,000億円を据え置き。ただし、セグメント下の事業別売上高・営業利益は、上期実績を踏まえて見直し
  - 食品は、下期に発生する追加コストアップの影響を好調な主力品でカバー
    →上期好調に推移した主力品の伸びに加え、追加的な価格改定やコスト低減、新商品投入を実施。コストアップ対策と成長戦略の両輪で通期利益計画の達成を目指す
  - 医薬品は、一部費用の期ズレなどを見込み、通期計画を維持
- 400億円の自己株式取得を決定。事業戦略レビューによる投資厳選と資産圧縮の進展、足元の堅調なキャッシュ創出で原資が拡大。中計の株主還元方針に則った規律ある資本政策として、ROE向上と機動的な還元を両立することが目的
- 引き続き、資本効率と競争優位性を重視した経営を推進
  意思決定の迅速化と徹底した合理化で生産性を高め、ROE向上に向けて経営基盤を強化。将来の成長をけん引する次なる芽を育てる段階に移行していく

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

2．2026年度 上期総括

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

2026年度 上期連結決算のハイライト

健康にアイデアを meiji

（億円）	1Q実績	前年同期比	2Q実績	前年同期比	上期実績	前年同期比	計画比	上期計画
売上高	2,894	+5.8% +158	3,089	+2.5% +76	5,983	+4.1% +234	+0.7% +38	5,945
うち、海外売上高	415	+13.6% +49	420	+3.6% +14	836	+8.3% +64	△5.0% △44	880
営業利益	226	+27.7% +49	252	+8.7% +20	478	+17.0% +69	+6.4% +28	450
営業利益率	7.8%	+1.3pt	8.2%	+0.5pt	8.0%	+0.9pt	+0.4pt	7.6%
親会社株主に帰属する四半期/中間純利益	152	+51.3% +51	137	+21.0% +23	290	+35.2% +75	+5.6% +15	275
ＥＰＳ	56.33円	19.06円	—	—	107.12円	+27.85円	+5.66円	101.46円

- 上期売上高は食品・医薬品ともに増収。食品は主力品が継続して伸長した一方、医薬品は1Qの貢献が大きい。計画比では食品がけん引して上回る
- 上期営業利益は大幅増益。医薬品が1Q・2Qともに利益をけん引。食品は乳幼児ミルクやフローズンデザートの減収や海外乳原料高騰が続き、2Qの増益幅は限定的。計画比では医薬品が貢献して上回る
- 中間純利益は大幅増益。持分法投資損益の改善が主な要因

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

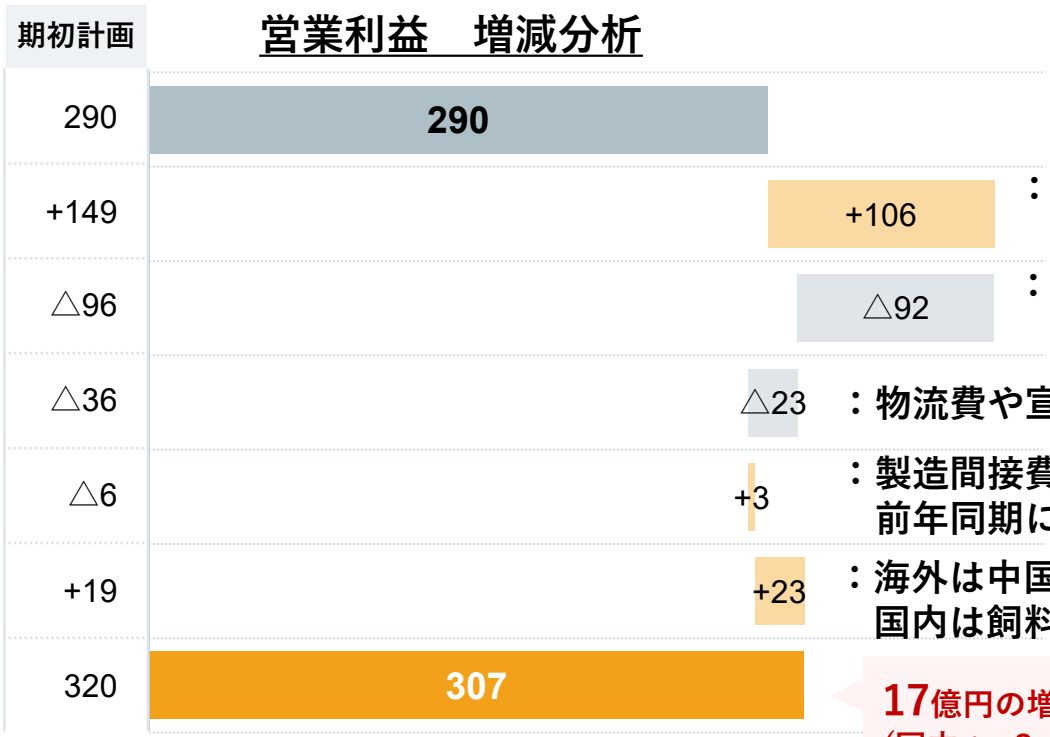
食品｜2026年度 上期決算概要

（億円）

	1Q実績	前年同期比	2Q実績	前年同期比	上期実績	前年同期比	計画比	上期計画
売上高	2,339	+4.1% +91	2,401	+2.8% +65	4,740	+3.4% +156	+1.1% +53	4,686
営業利益	151	+10.9% +14	155	+1.5% +2	307	+6.0% +17	△4.0% △12	320

フードソリューション事業や
デイリー事業の減益

営業利益　増減分析



：価格改定効果 ＋115
数量やプロダクトミックスの変動など △9

：原材料コスト（カカオ、国内生乳など）△93
容量変更などによる原価低減 +1

：物流費や宣伝費の増加

：製造間接費の増加（うち、構造改革による製造間接費低減 +11）、
前年同期に計上した海外事業拡大のための先行投資費用の反動など

：海外は中国の収益改善が寄与
国内は飼料子会社などが増益

17億円の増益
（国内：+3、 海外：+13）

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

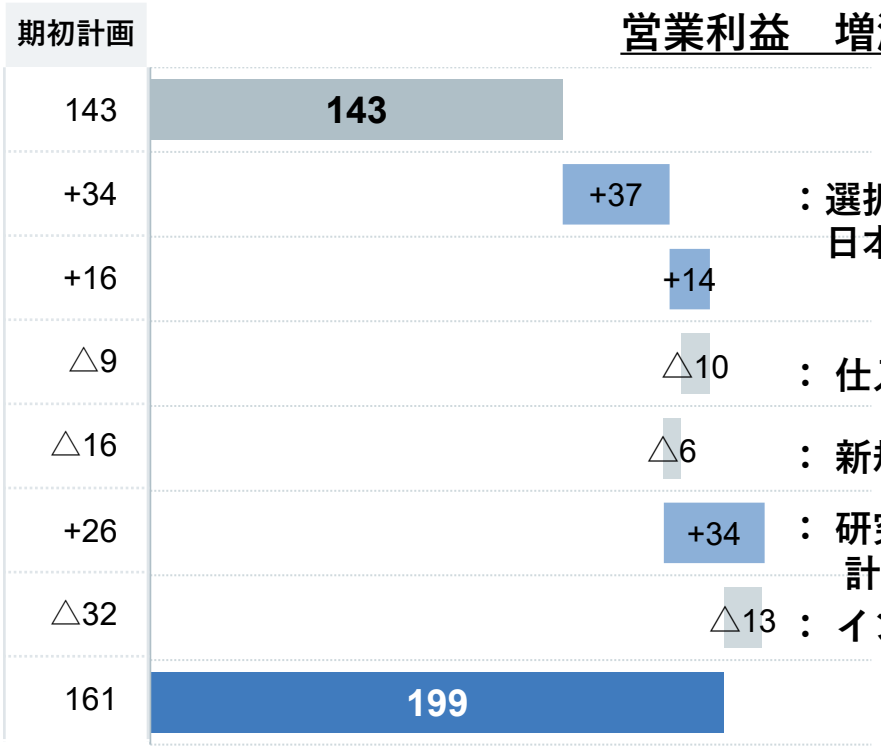
医薬品｜2026年度 上期決算概要

（億円）

	1Q実績	前年同期比	2Q実績	前年同期比	上期実績	前年同期比	計画比	上期計画
売上高	556	+13.6% +66	691	+1.8% +12	1,248	+6.7% +78	△1.5% △18	1,267
営業利益	84	+76.3% +36	115	+21.2% +20	199	+39.6% +56	+24.0% +38	161

プロダクトミックスの良化、
研究開発費の期ズレ

営業利益　増減分析



：選択的ROCK2阻害剤「レズロック錠」や不眠症治療薬「ボルズィ」、日本脳炎ワクチン「エンセバック」の伸長

：仕入原価の上昇

：新規発売品目に関する普及費の増加

：研究開発費の減少（前年同期は「コスタイベ」の2ドーズ開発費を計上）、一般管理費（システム関連費用など）の増加

：インフルエンザワクチンの出荷時期ズレ

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

3．2026年度 下期・通期見通し

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

2026年度 下期・通期見通し｜売上高は修正、営業利益は据え置き

健康にアイデアを meiji

	（億円）	上期実績	前年同期比	下期計画（11月修正）	前年同期比	下期計画（5月当初）	通期計画（11月修正）	前期比	通期計画（5月当初）
連結	売上高	5,983	+4.1% +234	6,266	+4.6% +278	6,175	12,250	+4.4% +513	12,120
	営業利益	478	+17.0% +69	521	△0.5% △2	550	1,000	+7.2% +66	1,000
	親会社株主に帰属する当期純利益	290	+35.2% +75	334	+146.0% +198	350	625	+78.2% +274	625
食品	売上高	4,740	+3.4% +156	4,959	+2.4% +114	4,853	9,700	+2.9% +271	9,539
	営業利益	307	+6.0% +17	432	+8.9% +35	419	740	+7.6% +52	740
医薬品	売上高	1,248	+6.7% +78	1,316	+14.2% +164	1,326	2,565	+10.5% +242	2,593
	営業利益	199	+39.6% +56	130	△19.3% △31	168	330	+8.4% +25	330
HD／消去	売上高	△5	— △0	△9	— △0	△4	△15	— △1	△13
	営業利益	△28	— △4	△41	— △6	△38	△70	— △11	△70

- 当期純利益は据え置き。中国デイリー事業・BtoB事業や日本罐詰の譲渡および冷凍食品事業の撤退に伴う損失が発生するが、特別利益の計上を見込む

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

食品｜通期計画の進捗

（億円）

		26年度 上期	前年同期比	26年度 下期	前年同期比	26年度 通期	前期比
営業利益	期初計画（5/14発表）	320	+10.3% +29	419	+5.7% +22	740	+7.6% +52
	上期実績 下期・通期修正計画（11/12発表）	307	+6.0% +17	432	+8.9% +35	740	+7.6% +52
	差	△12	—	+12	—	—	—

主な変動要因

- フードソリューション事業の減
→主に国内のフローズンデザートや中国アイスクリーム事業の未達
- デイリー事業の減益
→「おいしい牛乳」ブランドにおける付加価値品の売上未達

以下の下期取り組みを通じて、通期利益計画の達成を目指す

- 期初計画外の新商品の投入、価格改定・容量変更、コスト低減
- 商品・マーケティング戦略の強化
  - デイリー、カカオ、ニュートリション：主力品を中心に数量増トレンドを維持
  - フードソリューション：商品の見直しなどによる回復
- 中国デイリー・BtoB事業の譲渡（1月～）

→期初計画では譲渡は織り込まず

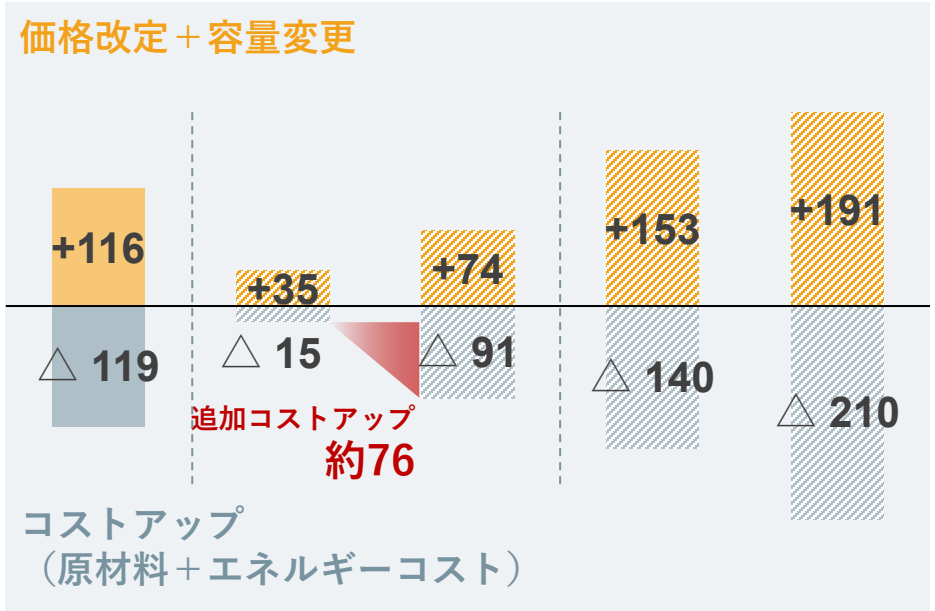
© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

食品｜コストアップへの対応

健康にアイデアを meiji

（億円）

営業利益への影響額



〈主な価格改定〉

26年6月	ザバス（粉末・バー）	+6-28%
9月	高栄養食品 ザバス（粉末）	+5-10% +11-22%、容量変更
11月	チョコレート、スナック	+3-8%
12月	ザバス（ドリンク）	+6-11%

■ 上期の主なコストアップ

	カカオ	海外乳原料	国内生乳	油脂	チーズ	糖類	包材	その他
影響額	△41	△23	△14	△5	△2	△2	△1	△5
期初計画比	△4	△6	+13	△2	△2	△4	+9	+8

- 輸入原料は為替の影響で、全体的に計画以上のコストアップ
- 保守的に織り込んでいた包材の影響は一部に留まる。国内生乳の乖離は、牛乳の売上未達による使用量の差が影響

■ 下期の主なコストアップ

	カカオ	海外乳原料	国内生乳	油脂	チーズ	糖類	包材	その他
影響見込額	+23	△49	△4	△8	+1	+9	△32	△11
期初計画比	△3	△39	—	△7	△1	△2	△18	△2

- 海外乳原料と包材、為替のマイナス影響を追加で見込む
- 発表済み以外の商品でも価格改定を検討
- 独自技術や機能性、ブランド価値を活かした商品展開を強化し、付加価値品の構成比を向上
- 状況のタイムリーなモニタリング体制の構築と、コスト削減などの追加的な打ち手の検討および機動的な実行（JACとの協業による経営のスピードアップの一環）

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

食品｜事業概況　デイリー事業

（億円）	上期実績	前年同期比	通期計画（11月修正）	前期比
売上高	1,368	+1.5% +20	2,785	+2.2% +59
うち、国内	1,346	+1.2% +16	2,737	+1.6% +43
海外	22	+22.6% +4	47	+46.9% +15
営業利益	133	+11.4% +13	285	△2.7% △7
うち、国内	145	+8.0% +10	305	△5.1% △16
海外	△11	— +2	△20	— +8

国内主力品の売上高（億円）

	上期実績	前年同期比（金額 / 数量）	通期計画（11月修正）	前期比
プロバイオティクス	457	+3.5%/+0.8%	979	△0.5%
ヨーグルト	422	+3.2%/△2.4%	801	+2.4%
市販・宅配牛乳	406	+0.5%/△3.3%	798	+2.2%

国内市場の前年同期増減率（上期）

- ヨーグルト（機能性含む）　+約6%
- 牛乳　+約1%

※ （株）明治単体、収益認識基準適用前実績
※ 数量ベースの前年同期比はプロダクトミックスの効果も含まれる参考値



左：「ヘモグロビンA1c対策ヨーグルト（ブルーベリー風味）」（112g）
希望小売価格：161円
右：「R-1 The GREEK」（112g）
希望小売価格：266円

■ 国内

- プロバイオティクス
  - 上期は堅調。「R-1」（+0.8%）と「ヘモグロビンA1c対策ヨーグルト」（計画比1.5倍）がけん引
  - 好調な両ブランドともに10月に期初計画外の新商品を発売。「R-1 The GREEK」などラインアップ拡充で売上拡大
- 「ブルガリア」は競合との売価差が縮まり、上期は数量増。マーケティング強化で数量維持し、収益改善へ
- 牛乳は天候不順の影響もあって計画未達。収益力の安定化に向けて、付加価値品に引き続き注力
- 上期は価格改定効果により、原材料コストや物流費の増加を吸収し増益。下期は主力品の数量増を見込み、計画上乗せ

■ 海外（中国）

- 製造間接費や拡売費などの減少で赤字縮小。事業譲渡により、計上は3Qまで
- 前年発売の「明治おいしい牛乳」が伸長

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

食品｜事業概況　カカオ事業

（億円）	上期実績	前年同期比	通期計画（11月修正）	前期比
売上高	901	+13.8% +109	1,990	+6.5% +121
うち、国内	541	+12.9% +61	1,211	+3.8% +43
海外	359	+15.3% +47	778	+11.0% +77
営業利益	41	△14.8% △7	180	+18.3% +27
うち、国内	35	△25.6% △12	150	+3.9% +5
海外	5	— +5	30	+280.0% +22

国内主力品の売上高（億円）

	上期実績	前年同期比（金額 / 数量）	通期計画（11月修正）	前期比
チョコレート	525	+10.4%/+14.1%	1,270	+5.7%

※ （株）明治単体、収益認識基準適用前実績
※ 数量ベースの前年同期比はプロダクトミックスの効果も含まれる参考値

国内市場の前年同期増減率（上期）

- チョコレート　+5-6%
- グミ　+2-3%







左：「生のとき なごり抹茶）」
右：「明治ミルクチョコレート」100周年ロゴ

国内

- チョコレート
  - 上期は「チョコレート効果」や板チョコ群、チョコスナックがけん引。商品力とマーケティング施策の相乗効果で数量拡大
  - 最需要期の下期は新商品を投入し、プロモーションも活性化。 減税前の買い控えリスクを想定し、2月までに売上最大化を目指す
- グミは新商品が寄与し増収。市場は成長期から安定期に徐々に移行しており、一層の差別化が成長のカギ。技術や機能、ブランド力など独自価値の創出に注力
- カカオ原料高が響いて上期減益。為替の影響は下期も続く。高付加価値商品の販売拡大に加え、SCM強化で機会損失を縮小し、増益を目指す

海外

- 米国は、ホールセールチャネルでのチョコスナックの強い伸びが続く見通し。中国は「アーモンドチョコレート」や板チョコなどが好調
- 利益は全体では増益基調。米国は減価償却費の増加により減益だが、中国は大幅増益

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

食品｜事業概況　ニュートリション事業

（億円）	上期実績	前年同期比	通期計画（11月修正）	前期比
売上高	625	+2.0% +12	1,232	+3.7% +44
うち、国内	573	+2.3% +12	1,108	+2.7% +29
海外	51	△1.4% △0	123	+13.4% +14
営業利益	69	△5.8% △4	135	+0.1% +0
うち、国内	70	△4.7% △3	136	△1.3% △1
海外	△1	— △0	△1	— +1

国内主力品の売上高（億円）

	上期実績	前年同期比（金額 / 数量）	通期計画（11月修正）	前期比
乳幼児ミルク・流動食	326	△2.1%/—	643	△2.8%
スポーツ栄養	314	+10.9%/+8.2%	561	+4.7%

※ （株）明治単体、収益認識基準適用前実績
※ 数量ベースの前年同期比はプロダクトミックスの効果も含まれる参考値

国内市場の前年同期増減率（上期）

- スポーツプロテイン（飲料）　+約25%



左：韓国では「ザバス ソイプロテイン」を中心に展開開始（店舗＋EC）
右：「ザバス BIOPRO（ブルーベリー風味）」（300mL）

健康にアイデアを
meiji

国内

- ザバス
  - 粉末は、金額・数量ともに上期5%以上の伸長。ターゲット層を絞って価値訴求する戦略が奏功。下期は減税前の買い控えリスクを想定し、商品ラインアップを拡充、プロモーションも強化
  - 飲料は2桁成長が続く。新商品の寄与や販促強化により、CVSを中心に高い伸び。下期も商品ラインアップを拡充予定
- 乳幼児ミルクはインバウンド縮小により減収。競合との売価差が縮まる中で、リニューアル品の普及に注力
- 流動食は価格改定の定着と数量回復に着実に取り組む
- 価格改定効果や構造改革によるコスト削減が奏功。下期も原材料コスト増への対策を講じ、増益を維持

海外

- 上期は、ベトナムの乳幼児ミルクの減収を、台湾の乳幼児ミルクや高栄養食品がカバー
- 下期はベトナムの乳幼児ミルクを中心に増収を見込む

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

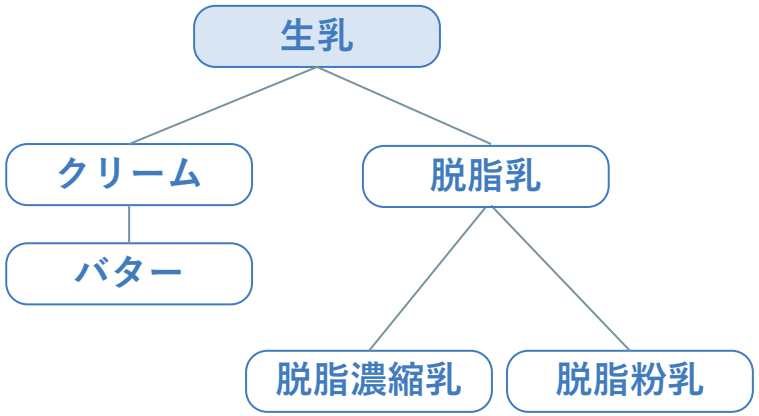
食品｜北海道新工場の活用による付加価値向上と収益力強化



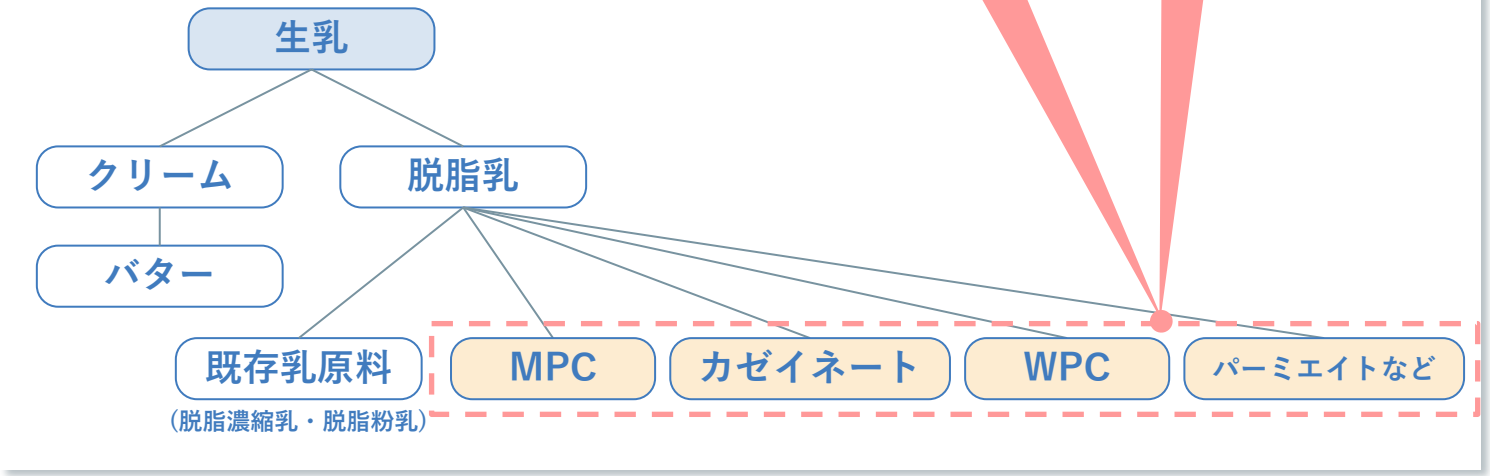
■生産品目
脱脂濃縮乳、脱脂粉乳、乳たんぱく質、
クリーム、バターなど

FY2026	FY2027	FY2028～
3月 ・北海道新工場 稼働 ・西春別工場 生産中止	9月 本別工場 生産中止	
既存品から段階的に生産	付加価値乳製品・乳原料の生産開始	
→ 最新技術の活用による省人化、生産性の向上	→ 乳原料内製化による原価低減	新たな製品の上市による売上成長や収益性改善

従来の生産フロー（概略図）



新工場の生産フロー（概略図）



※MPC（乳タンパク質濃縮物：Milk Protein Concentrates）, WPC（ホエイプロテイン濃縮物：Whey Protein Concentrates）

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

食品｜事業概況　フードソリューション事業

（億円）	上期実績	前年同期比	通期計画（11月修正）	前期比
売上高	1,026	△0.3% △3	2,056	+1.0% +19
うち、国内	962	△0.1% △1	1,933	+1.2% +23
海外	63	△3.2% △2	123	△3.3% △4
営業利益	46	△10.5% △5	112	+17.2% +16
うち、国内	58	△16.4% △11	128	△0.8% △1
海外	△11	— +6	△15	— +17

国内主力品の売上高（億円）

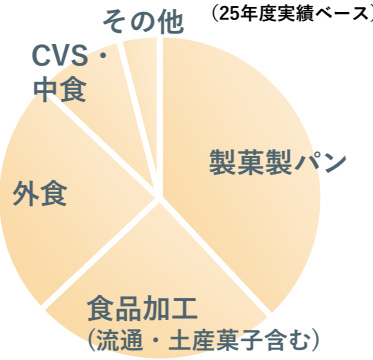
	上期実績	前年同期比（金額 / 数量）	通期計画（11月修正）	前期比
BtoB	496	+0.6%/—	1,050	+0.9%
市販チーズ	142	+5.0%/+1.2%	300	+6.7%
市販アイスクリーム	313	△1.2%/△6.2%	516	△0.9%

※ （株）明治単体、収益認識基準適用前実績
※ 数量ベースの前年同期比はプロダクトミックスの効果も含まれる参考値

国内市場の前年同期増減率（上期）

- チーズ　+5-6%
- アイスクリーム　△約5%

BtoB：販売チャネル別売上高構成比（25年度実績ベース）



■ 国内

- BtoB
  - 価格改定を進めながら、上期は堅調に推移
  - 付加価値品を軸に採用数を伸ばし、プロダクトミックスは改善
  - 特定の販売チャネルに依存しない構成のため、減税の影響は軽微の見込。下期も着実に成長
- 市販チーズは主力のカマンベールを中心に好調続く
- 市販アイスクリームは、天候不順などの影響で上期は低調。下期に商品ラインアップを強化し、停滞打破
- 原材料高に加え、物流費や製造間接費の増加により上期減益。下期に注力する商品群やBtoBの成長がカギ

■ 海外（中国）

- 製造間接費などの減少が寄与して増益。BtoBは事業譲渡により、計上は3Qまで
- 業務用クリームは大幅成長も、BtoB全体では前年並み
- アイスクリームは競争激化で減収。来春に向けた商品開発に注力

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

医薬品｜通期計画の進捗

（億円）

		26年度 上期	前年同期比	26年度 下期	前年同期比	26年度 通期	前期比
営業利益	期初計画（5/14発表）	161	+12.6% +17	168	+4.7% +7	330	+8.4% +25
	上期実績 下期・通期修正計画（11/12発表）	199	+39.6% +56	130	△19.3% △31	330	+8.4% +25
	差	+38	—	△38	—	—	—

主な変動要因

- 「レズロック」「ボルズィ」の伸長およびプロダクトミックスの良化
- 海外子会社の収益改善
- 費用発生の期ズレ（研究開発費や普及費）

以下の下期リスク要因を踏まえて、通期利益計画を据え置き

- 上期からの費用期ズレ。また、研究開発費は通期で増加を見込む
- 国内・海外ともに感染症市場（経口剤）が低調に推移
- グロブリン製剤（血漿分画製剤）の販売を保守的に見直し

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

医薬品｜事業概況　国内事業

（億円）	上期実績	前年同期比	通期計画（11月修正）	前期比
売上高	630	+11.2% +63	1,300	+11.4% +133
営業利益	100	+4.2% +4	199	+26.0% +41

主要領域別の売上高（億円）

	上期実績	前年同期比	通期計画（11月修正）	前期比
感染症領域※1	238	+16.8% +34	472	+15.9% +64
スルバシリン	72	+6.7% +4	139	+4.7% +6
タゾピペ	64	+43.6% +19	127	+42.9% +38
メイアクト群	27	+18.6% +4	58	+19.7% +9
免疫炎症領域※1	154	+3.9% +5	331	△2.2% △7
血漿分画製剤	73	△16.2% △14	157	+4.4% +6
レズロック	69	+64.3% +27	139	+53.9% +48
中枢神経系(CNS)領域※1	96	△5.9% △6	201	+2.2% +4
ジェネリック医薬品※2	140	+26.6% +29	294	+32.0% +71

※1 各領域のジェネリック医薬品含む
※2 各領域に含まれないジェネリック医薬品のみ

研究開発費増を主力品の伸長でカバーし、増益基調続く

■ 感染症領域

- 感染症流行の弱さから経口抗菌薬の数量は低調だが、注射剤は相対的に底堅い動き
- 「スルバシリン」および薬価の下支えがある「タゾピペ」は安定供給体制も評価されており、数量増が続く

■ 免疫炎症領域

- 血漿分画製剤：4月から自社販売する「ベニロン」は想定より切り替えが遅れたため上期未達。足元では想定水準に戻りつつあるが、下期は保守的に見直し
- 慢性GVHD治療薬「レズロック錠」：専門MRによる普及活動が処方拡大につながり、好調を維持

■ その他

- 大正製薬と共同販売する不眠症治療薬「ボルズィ」は臨床成績を中心にした普及活動で、上期は計画以上の推移。処方日数制限解除後の成長加速に注力
- ジェネリック医薬品は、今期新たに承継したオーソライズド・ジェネリック(AG)が寄与。収益性と安定供給体制強化の取り組みも着実に進展

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

医薬品｜ジェネリック医薬品の業界再編に向けた進捗
（医薬品共創機構の設立）

健康にアイデアを meiji

株式譲渡後の体制（27年4月1日～　予定）



■ 共創機構のねらい

- バリューチェーンの上流（研究開発、サプライチェーン、製造、品質保証）を軸とした安定供給体制の高度化に取り組むことを通じて、後発医薬品の供給不安の早期解消と持続可能な事業基盤の確立を目指す
- 今後のスケジュール

26年10月	PMIプランのさらなる精緻化の開始
26年12月	株式会社医薬品共創機構の設立
27年3月31日	吸収分割効力発生
27年4月1日	クロージング・株式譲渡・PMIスタート

■ 当社グループにとっての意義

- 2026年度の薬価制度改正により、10月以降に薬価収載されるAGは原則として先発品と同額に設定。AG以外のジェネリック医薬品への需要はさらに高まる見通し
- 一方、薬価引き下げが続く中では、複数企業の連携による製造拠点の集約や品目統合などの構造改革は不可避

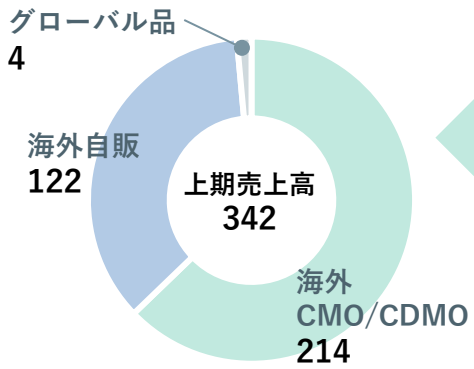
→生産性向上と安定供給体制の確立を実現

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

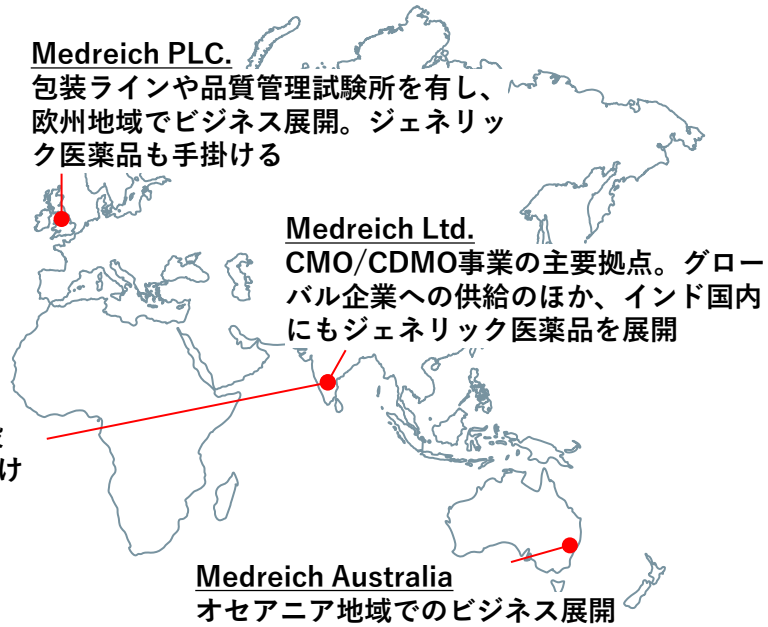
医薬品｜事業概況　海外事業

（億円）	上期実績	前年同期比	通期計画（11月修正）	前期比
売上高	342	+4.7% +15	710	+9.6% +62
営業利益	43	+5.5% +2	64	△37.6% △38

領域別売上高(億円)



海外CMO/CDMO事業の主軸
メドライクグループの主要拠点



Medreich PLC.
包装ラインや品質管理試験所を有し、欧州地域でビジネス展開。ジェネリック医薬品も手掛ける

Medreich Ltd.
CMO/CDMO事業の主要拠点。グローバル企業への供給のほか、インド国内にもジェネリック医薬品を展開

Adcock Ingram Ltd.
南アフリカのAdcock Ingram Holdingsとの合弁会社として設立。南ア、欧州、オセアニア向けの医薬品を製造受託

Medreich Australia
オセアニア地域でのビジネス展開

通期では研究開発費増や前期に発生したロイヤリティ収入の減少により減益見通しだが、トップラインは着実に成長

■ 海外CMO/CDMO※1

- 生産能力および外部向け取引の拡大に注力しており、増収基調が続く
- インド：需要が増加している先発抗菌薬の出荷が想定以上で推移。引き続き成長ドライバーと位置付け
- 英国：市場でジェネリック医薬品の供給不足が発生する中、当社は着実に対応し好調に推移
- 原薬調達の見直しによる収益改善が進む

■ 海外自販

- スペインやタイが好調。いずれも感染症流行が弱い中で、抗菌薬以外の品目が成長をけん引
- 中国は出荷遅延で減収基調
- 現地の自販が好調なタイでは、7月に抗悪性腫瘍剤「ハイヤスタ錠」の製造販売承認を取得※2

※1 メドライクグループのジェネリック医薬品事業を含む
※2 再発または難治性の成人T細胞白血病リンパ腫（ATLL）および末梢性T細胞リンパ腫（PTCL）を適応症とする

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

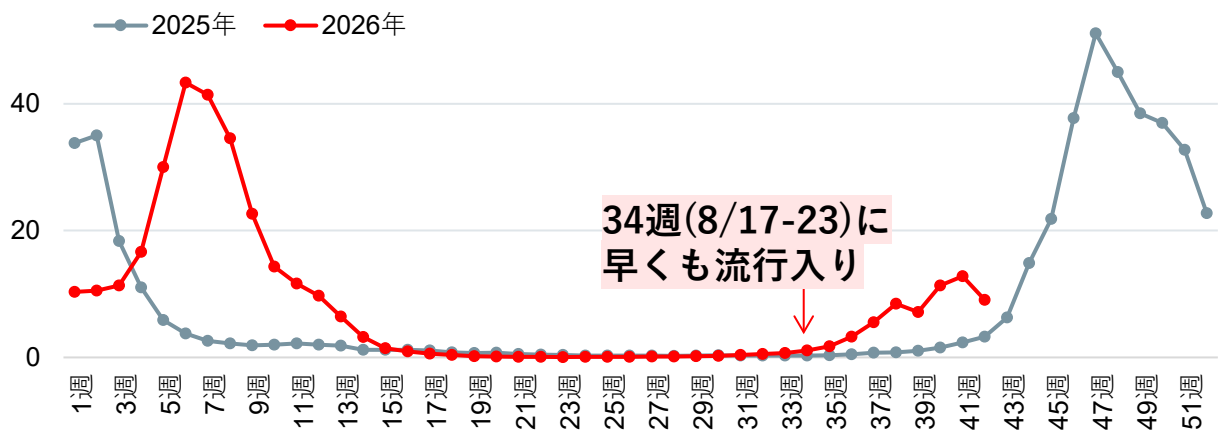
医薬品｜事業概況　ワクチン・動物薬事業

（億円）	上期実績	前年同期比	通期計画（11月修正）	前期比
売上高	276	△0.1% △0	554	+9.4% +47
営業利益	55	+1,003.2% +50	66	+54.4% +23

主要領域別の売上高（億円）

	上期実績	前年同期比	通期計画（11月修正）	前期比
ヒト用ワクチン	232	+1.1% +2	444	+9.6% +38
インフルエンザワクチン	138	△16.9% △28	205	△2.7% △5

季節性インフルエンザ　定点あたり報告数（全国）推移



（出所）国立健康危機管理研究機構感染症情報提供サイトをもとに作成

下期の研究開発費は増加。通期では、増収や棚卸評価減の減少により増益見通し

■ ヒト用ワクチン

- 5種混合ワクチン「クイントバック」は着実な数量増
- 日本脳炎ワクチン「エンセバック」は、安定供給体制を強みにシェア拡大
- インフルエンザワクチン
  - 熊本の震災影響により出荷前検査スケジュールが遅れたことで、一部出荷が下期に期ズレ
  - 今シーズンの製造株の増殖性が想定よりも低かったことから、通期売上高を下方修正。ただし、返品数の減少を見込み、利益見通しには影響なし

グローバル研究開発型企業を目指した取り組み

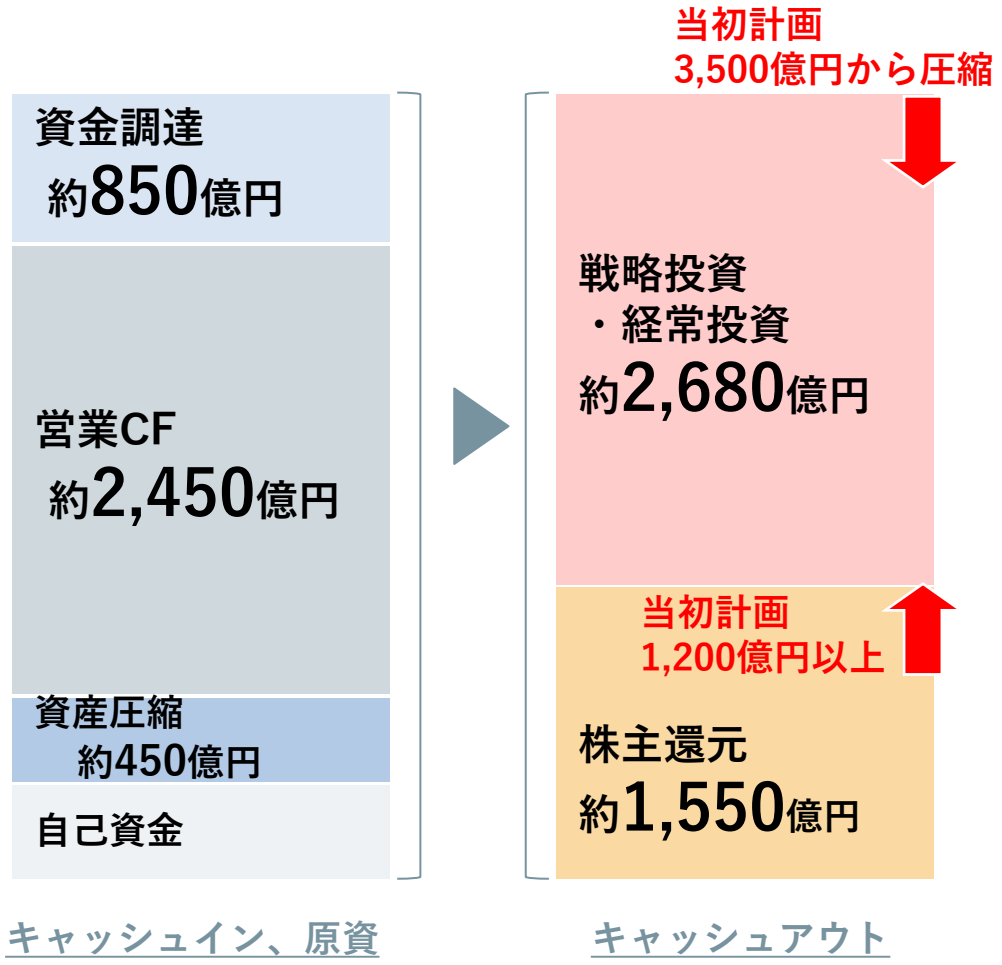
- WHOのICG※によるエムポックスの流行に備えた世界的なワクチン備蓄体制プログラムに参画（10月28日リリース）
  →乾燥細胞培養痘そうワクチン LC16「KMB」を提供（供給19.25万回分＋寄付5.75万回分）し、国際的な認知度向上へ
- 新規デングワクチンの着実な開発
  →P2試験は本年中に終了予定

※International Coordinating Group on Vaccine Provision：ワクチン接種対策の国際調整団体

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

キャッシュアロケーションの見通し

〈2026中計 3年間のキャッシュアロケーション〉
（24-25年度実績＋26年度11月時点見込）



（億円）

	24年度	25年度	26年度 計画 （11月修正）	合計
営業CF	689	565	1,190	2,445
設備投資額	566	1,037	1,075	2,679
うち、食品	406	529	714	1,649
医薬品	156	499	356	1,012
1株あたり配当金	100円	105円	110円	
総還元性向	112.8%	81.1%	111.7%	
配当性向	53.7%	81.1%	47.7%	

- 事業戦略レビューで事業環境と中計進捗を見極め、投資を精査。構造改革による資産圧縮などのアセットライト化も着実に進む見通し
- 足元のキャッシュ創出力の高まりを踏まえ、2026中計で掲げた株主還元方針やROE向上を念頭に、400億円の自己株式取得を決定

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

2026年度計画

（億円）	25年度 通期実績	26年度 通期計画 （11月修正）	前期比
明治ROESG	6.1 pt	7.8 pt	+1.7 pt
売上高	11,736	12,250	+4.4% +513
うち、海外売上高	1,613	1,780	+10.4% +167
営業利益	933	1,000	+7.2% +66
営業利益率	7.9%	8.2%	+0.2 pt
親会社株主に帰属する当期純利益	350	625	+78.2% +274
EPS	129.42円	230.61円	+101.19円
１株当たり配当金	105円	110円	+5円

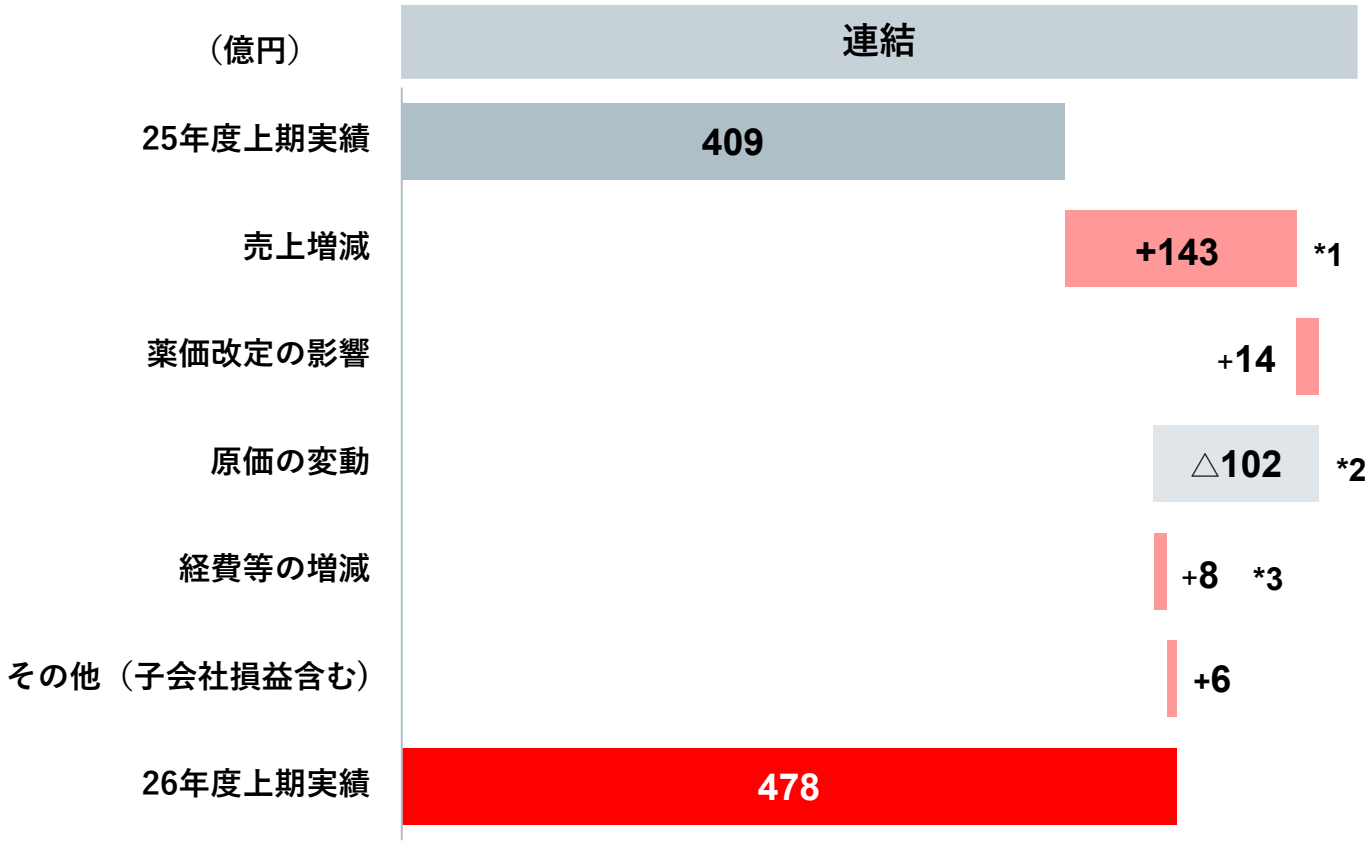
（億円）	25年度 通期実績	26年度 通期計画 （11月修正）	前期比
総還元性向	81.1%	111.7%	+30.6 pt
配当性向	81.1%	47.7%	△33.4 pt
ROE	4.6%	8.2%	+3.5 pt
ROIC	7.8%	8.0%	+0.2 pt
設備投資額	1,037	1,075	+3.7% +38
営業CF	565	1,190	+110.5% +624
フリーCF	△538	180	— +718

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

参考資料

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

2026年度 上期　連結営業利益増減分析



（億円）	連結	食品	医薬品	他
25年度上期実績	409	290	143	△23
売上増減	+143 *1	+106	+37	—
薬価改定の影響	+14	—	+14	—
原価の変動	△102 *2	△92	△10	—
経費等の増減	+8 *3	△20	+29	—
その他（子会社損益含む）	+6	+23	△13	△4
26年度上期実績	478	307	199	△28

*1：　価格改定効果を含む

*2：　主な内訳　【食品】　原材料コスト増（カカオ、国内生乳など）△93

その他（容量変更など）+1

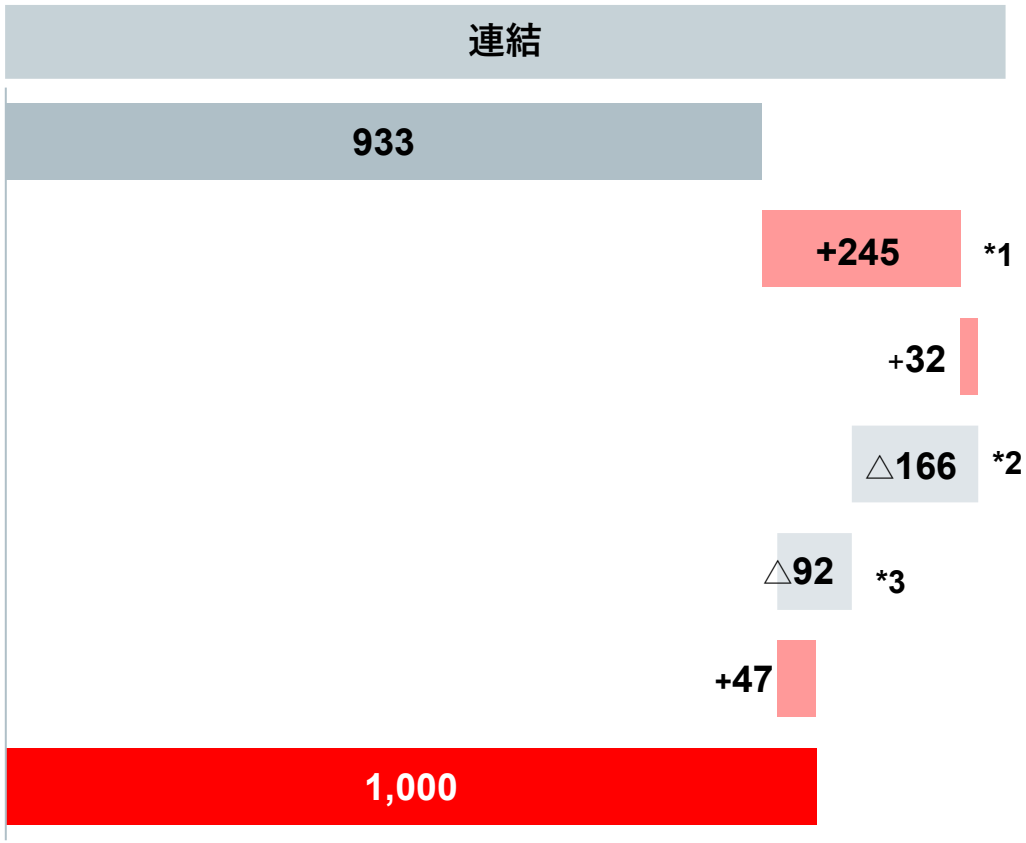
【医薬品】　仕入原価の上昇△10

*3：　主な内訳　【食品】　マーケティング費用等の変動△23、その他費用の変動+3

【医薬品】　マーケティング費用等の変動△6、その他費用の変動+34

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

2026年度 通期　連結営業利益増減分析



	食品	医薬品	他
25年度通期実績	687	304	△59
売上増減	+210	+36	—
薬価改定の影響	—	+32	—
原価の変動	△149	△17	—
経費等の増減	△58	△33	—
その他（子会社損益含む）	+50	+8	△11
26年度通期計画（11月修正）	740	330	△70

*1：　価格改定効果を含む

*2：　主な内訳　【食品】　原材料コスト増（カカオ、国内生乳など）△164

その他（容量変更など）+15

【医薬品】　仕入原価の上昇△17

*3：　主な内訳　【食品】　マーケティング費用等の変動△36、その他費用の変動△22

【医薬品】　マーケティング費用等の変動△2、その他費用の変動△32

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

食品｜2026年度 上期　事業別営業利益 増減分析

（億円）

	食品全体	デイリー	カカオ	ニュートリション	フードソリューション	その他
25年度上期営業利益	290	120	48	73	52	△4
売上増減	+106	+38	+44	+5	+20	△0
原価の変動	△92	△16	△48	△7	△20	△1
経費等の増減	△20	△8	△9	△3	△11	+10
マーケティング費用等の変動	*△23*	*△12*	*△5*	*△1*	*△6*	*+1*
その他費用の変動（内、研究開発費）	*+3 (△2)*	*+4*	*△4*	*△1*	*△5*	*+9*
その他（子会社損益など）	+23	△0	+6	+1	+5	+12
26年度上期営業利益	307	133	41	69	46	16

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

食品｜2026年度 下期　事業別営業利益 増減分析

（億円）

	食品全体	デイリー	カカオ	ニュートリション	フードソリューション	その他
25年度下期営業利益	397	172	104	61	43	15
売上増減	+103	+14	+19	+44	+25	+1
原価の変動	△57	△22	+9	△40	△4	+1
経費等の増減	△38	△16	△11	△1	△11	+0
マーケティング費用等の変動	*△13*	*△5*	*△5*	*+3*	*△4*	*△2*
その他費用の変動（内、研究開発費）	*△25 (+2)*	*△10*	*△5*	*△4*	*△7*	*+2*
その他（子会社損益など）	+26	+2	+17	+2	+12	△7
26年度下期営業利益（11月修正計画）	432	151	139	65	65	10

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

食品｜2026年度 通期　事業別営業利益 増減分析

（億円）

	食品全体	デイリー	カカオ	ニュートリション	フードソリューション	その他
25年度通期営業利益	687	292	152	135	95	11
売上増減	+210	+52	+63	+49	+45	+1
原価の変動	△149	△38	△39	△47	△24	△1
経費等の増減	△58	△24	△19	△4	△22	+11
マーケティング費用等の変動	*△36*	*△17*	*△10*	*+1*	*△10*	*△0*
その他費用の変動（内、研究開発費）	*△22 (△0)*	*△6*	*△9*	*△5*	*△12*	*+11*
その他（子会社損益など）	+50	+2	+23	+3	+17	+5
26年度通期営業利益（11月修正計画）	740	285	180	135	112	27

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

食品｜2026年度　海外事業概況

健康にアイデアを meiji

■ 地域別

（億円）

		26年度 上期実績	前年同期比	26年度 下期計画（11月修正）	前年同期比	26年度 通期計画（11月修正）	前期比	26年度 通期計画（5月当初）
中国	売上高	136	+12.7% +15	177	+9.7% +15	313	+11.0% +31	330
	営業利益	△15	— +19	4	— +30	△10	— +49	△8
アジア	売上高	187	+31.6% +44	176	△5.9% △11	363	+10.3% +33	347
	営業利益	7	△18.3% △1	9	+139.2% +5	17	+27.7% +3	16
欧米	売上高	212	+8.4% +16	212	+3.0% +6	424	+5.6% +22	422
	営業利益	6	△28.3% △2	12	+9.5% +1	18	△6.9% △1	21
海外計	売上高	493	+11.0% +48	576	+10.8% +56	1,070	+10.9% +105	1,087
	営業利益	△20	— +13	12	— +36	△8	— +50	1

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

食品｜2026年度　海外事業概況

■ 中国事業

（億円）

	26年度 上期実績	前年同期比	26年度 下期計画（11月修正）	前年同期比	26年度 通期計画（11月修正）	前期比	26年度 通期計画（5月当初）
売上高	136	+12.7% +15	177	+9.7% +15	313	+11.0% +31	330
デイリー	20	+23.5% +3	24	+88.8% +11	44	+51.9% +15	49
カカオ	58	+26.9% +12	90	△1.9% △1	149	+7.6% +10	148
ニュートリション	0	— +0	0	— +0	0	— +0	0
フードソリューション	57	△1.6% △0	62	+10.8% +6	119	+4.5% +5	133
営業利益	△15	— +19	4	— +30	△10	— +49	△8
デイリー	△7	— +3	△4	— +5	△11	— +9	△16
カカオ	0	— +8	8	— +10	9	— +18	7
ニュートリション	△0	— +1	△0	— +1	△0	— +2	△0
フードソリューション	△8	— +6	0	— +12	△8	— +18	0

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

食品｜2026年度　主力品の売上高

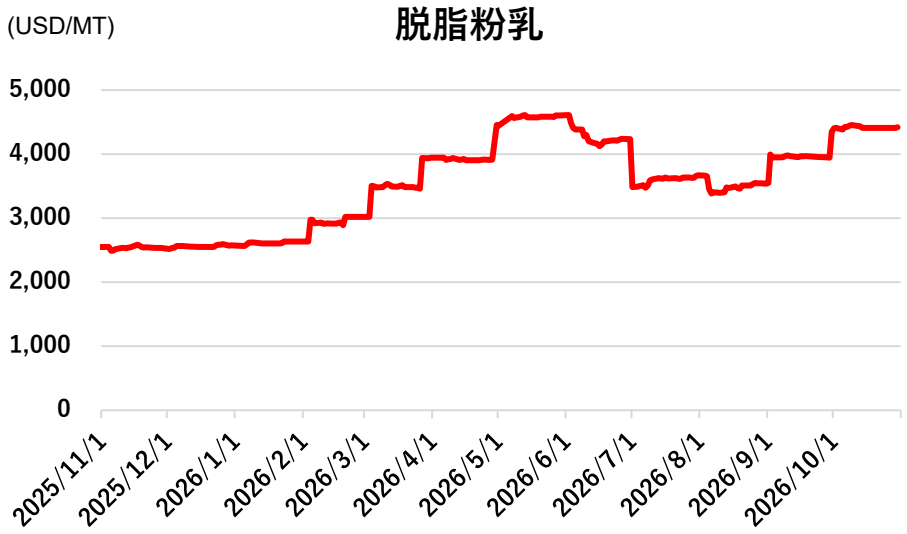
（億円）

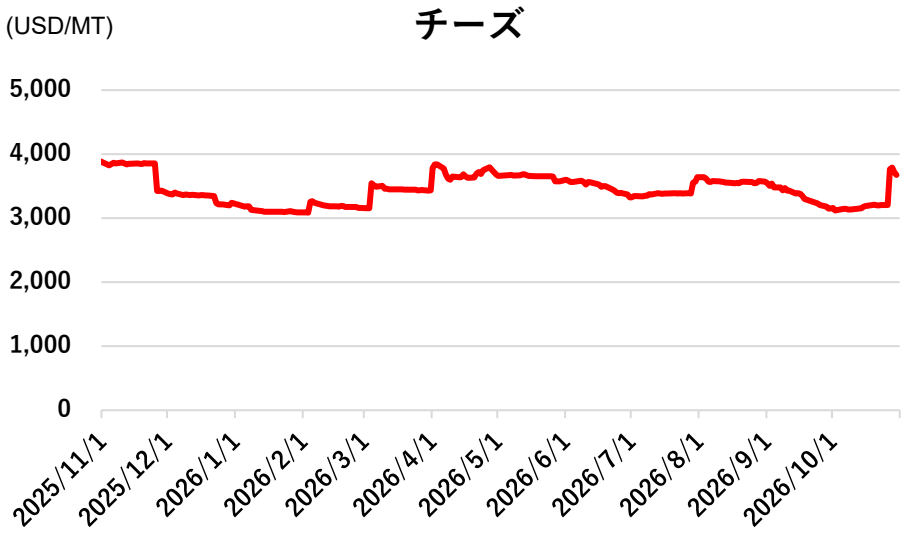
	26年度 上期実績	前年同期比 金額	前年同期比 数量※1	計画比	26年度 下期計画（11月修正）	前年同期比	26年度 通期計画（11月修正）	前期比	26年度 通期計画（5月当初）
プロバイオティクスヨーグルト	457	+3.5%	+0.8%	+0.9%	522	△3.7%	979	△0.5%	956
ヨーグルト	422	+3.2%	△2.4%	+1.5%	379	+1.6%	801	+2.4%	804
市販・宅配牛乳	406	+0.5%	△3.3%	△3.3%	393	+3.9%	798	+2.2%	819
チョコレート	525	+10.4%	+14.1%	+5.0%	745	+2.7%	1,270	+5.7%	1,231
乳幼児ミルク・流動食	326	△2.1%	—	+0.3%	317	△3.5%	643	△2.8%	649
スポーツ栄養（ザバスミルク含む）	314	+10.9%	+8.2%	+8.9%	247	△2.1%	561	+4.7%	532
BtoB	496	+0.6%	—	+0.6%	553	+1.2%	1,050	+0.9%	1,050
市販チーズ	142	+5.0%	+1.2%	+0.4%	157	+8.3%	300	+6.7%	299
市販アイスクリーム	313	△1.2%	△6.2%	△3.8%	203	△0.5%	516	△0.9%	528

※1 プロダクトミックスの効果も含まれる参考値　　※2 収益認識基準は適用していません

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

主要輸入原料相場の動向









（出所）Factset

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

医薬品｜2026年度 上期　事業別営業利益 増減分析

（億円）

	医薬品全体	国内	海外	ワクチン・動物薬
25年度上期営業利益	143	96	41	5
売上増減	+37	+20	+0	+17
薬価改定の影響	+14	+14	―	―
原価の変動	△10	△8	△1	△1
経費等の増減	+29	△15	△4	+48
マーケティング費用等の変動	*△6*	*△6*	*△3*	*+3*
その他費用の変動 *（内、研究開発費）*	*+34* *(+37)*	*△9*	*△1*	*+44*
その他 （子会社損益など）	△13	△7	+8	△13
26年度上期営業利益	199	100	43	55

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

医薬品｜2026年度 下期　事業別営業利益 増減分析

（億円）

	医薬品全体	国内	海外	ワクチン・動物薬
25年度下期営業利益	161	61	62	38
売上増減	△1	+31	△25	△7
薬価改定の影響	+18	+18	―	―
原価の変動	△7	△3	△2	△3
経費等の増減	△62	△15	△18	△29
マーケティング費用等の変動	*+4*	*△2*	*△6*	*+12*
その他費用の変動（内、研究開発費）	*△66 (△78)*	*△14*	*△11*	*△41*
その他（子会社損益など）	+21	+5	+3	+12
26年度下期営業利益（11月修正計画）	130	98	20	11

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

医薬品｜2026年度 通期　事業別営業利益 増減分析

（億円）	医薬品全体	国内	海外	ワクチン・動物薬
25年度通期営業利益	304	157	103	43
売上増減	+36	+51	△25	+10
薬価改定の影響	+32	+32	―	―
原価の変動	△17	△10	△3	△4
経費等の増減	△33	△30	△22	+18
マーケティング費用等の変動	*△2*	*△7*	*△10*	*+15*
その他費用の変動（内、研究開発費）	*△32 (△42)*	*△23*	*△12*	*+3*
その他（子会社損益など）	+8	△2	+11	△1
26年度通期営業利益（11月修正計画）	330	199	64	66

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

医薬品｜開発パイプライン－１

	製品名／開発コード（一般名）	薬効分類・適応症	ステージ						備考
感染症	OP0595（ナキュバクタム）	カルバペネム系抗菌薬に耐性を示すグラム陰性菌による各種感染症（β-ラクタマーゼ阻害剤）	日本	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	F	A	自社創製
			海外	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	F	A	
	コスタイベ筋注用	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（12～17歳・自己増幅型mRNAワクチン）	日本	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	F	A	提携：CSL Seqirus社（米国）
	KD-414	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（小児・不活化ワクチン）	日本	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	F	A	
	KD2-396	百日せき菌、ジフテリア菌、破傷風菌、ポリオウイルス、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型、B型肝炎ウイルスによる感染症の予防（6種混合ワクチン）	日本	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	F	A	
	KD-382	デング熱の予防（弱毒生4価デングワクチン）	海外	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	F	A	
血液・がん	注射用レザフィリン/ME2906（タラポルフィンナトリウム）	子宮頸部上皮内腫瘍（CIN）（光線力学的療法（PDT）用剤）	日本	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	F	A	
	ハイヤスタ錠/HBI-8000（ツシジノスタット）	切除不能または転移性悪性黒色腫（メラノーマ）治療薬（HDAC阻害剤）	海外	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	F	A	共同開発：HUYABIO International社（米国）
	KD-380（10%液状人免疫グロブリン）	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（CIDP）患者及び多巣性運動ニューロパチー（MMN）患者の急性期治療、維持療法（血漿分画製剤）	日本	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	F	A	
	KD-416（血液凝固第X因子製剤）	血液凝固第X因子欠乏症患者の出血傾向の抑制（血漿分画製剤）	日本	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	F	A	自社創製

※「ステージ」は開発品目の進捗段階を示しています。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは臨床試験のフェーズ、Fは製造販売承認申請、Aは製造販売承認取得を表しています。

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

医薬品｜開発パイプライン－２

	製品名／開発コード（一般名）	薬効分類・適応症	ステージ						備考
免疫炎症	レズロック/ME3208 （ベルモスジル）	慢性移植片対宿主病（cGVHD）治療薬（選択的ROCK2阻害剤）	海外	I	II	III	F	A	承認（韓国・台湾・タイ）
		小児慢性移植片対宿主病（cGVHD）治療薬（選択的ROCK2阻害剤）	日本	I	II	III	F	A	
		慢性移植肺機能不全（CLAD）治療薬（選択的ROCK2阻害剤）	日本	I	II	III	F	A	
	IMULDOSA/DMB-3115 （ウステキヌマブ後続品）	尋常性乾癬/関節症性乾癬/クローン病 /潰瘍性大腸炎治療薬（バイオ後続品）	海外	I	II	III	F	A	共同開発：東亞ST株式会社（韓国）／導出先：Intas Pharmaceuticals Ltd.（インド）
			日本	I	II	III	F	A	
	ME3241	自己免疫疾患治療薬（抗PD-1アゴニスト抗体）	海外	I	II	III	F	A	共同研究：神戸医療産業都市推進機構

※「ステージ」は開発品目の進捗段階を示しています。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは臨床試験のフェーズ、Fは製造販売承認申請、Aは製造販売承認取得を表しています。

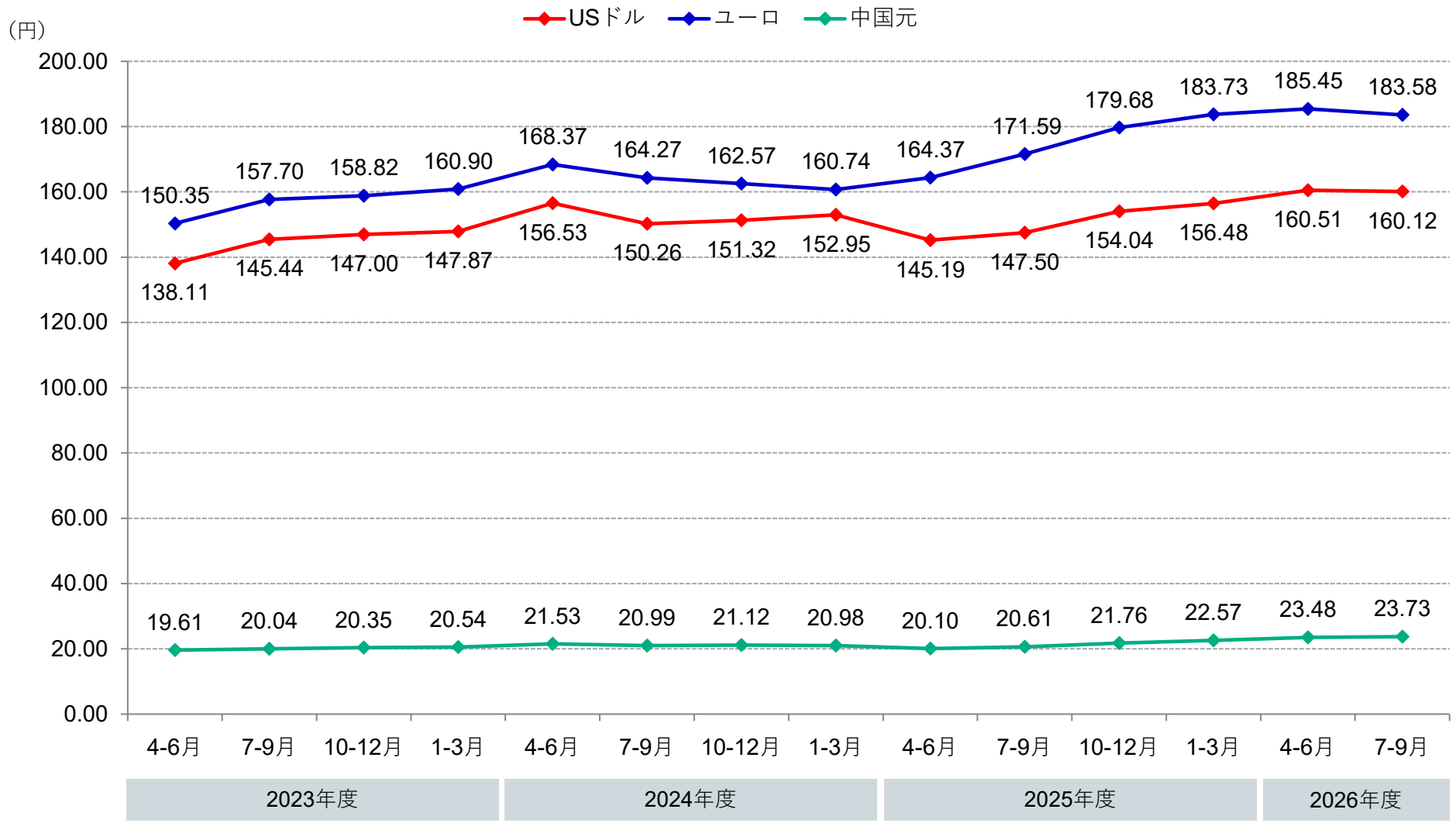
© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

医薬品｜開発パイプライン－３

	製品名／開発コード（一般名）	薬効分類・適応症	ステージ	備考
動物薬	フルニキシン注「meiji」/MD-22-3002	抗炎症剤（牛、豚、馬）	発売（日本）	2026年1月6日発売
	ME4305	抗菌性製剤（牛）	申請（日本）	自社創製
	MD-22-1001-1	抗菌性注射剤（牛）	申請（日本）	
	ME4406	飼料添加物	開発中	自社創製

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

主要通貨 当社平均レート



26年度計画の為替前提

USD	160円
EUR	175円
RMB	21円

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

健康にアイデアを

meiji

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.